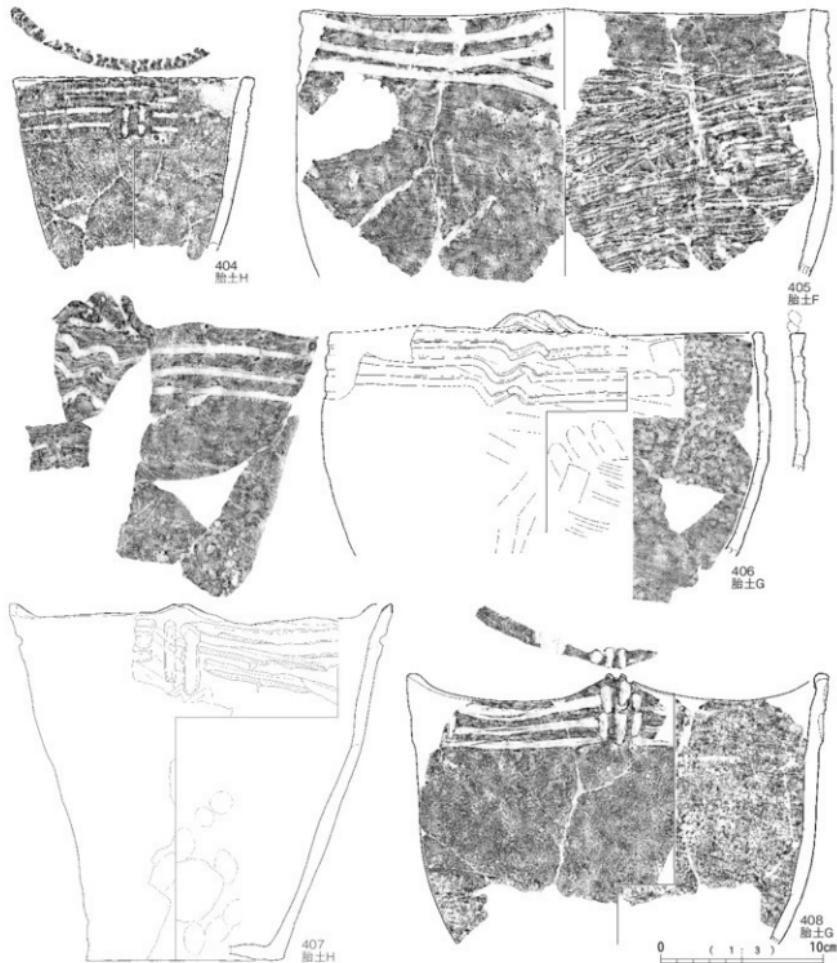


第73図 7B類土器実測図(2)【3本並行沈線文1】

形の波頂部を持つとみられ。波頂部下位に施された竪方向の2本の短沈線文間を並走する3本の並走沈線文で文様が構成される。なお、並走する幅広沈線文の上位にヘラ状工具による沈線文が重ねられる。内面には輪積み痕

とそれを指押させた痕跡がそのまま残されている。底部径は11~11.5cm程度で、接地面には葉脈痕がスタンプされている。408は復元口徑26cmで、最大径が口縁部にある深鉢形土器である。5~6か所の山形の波頂部を備

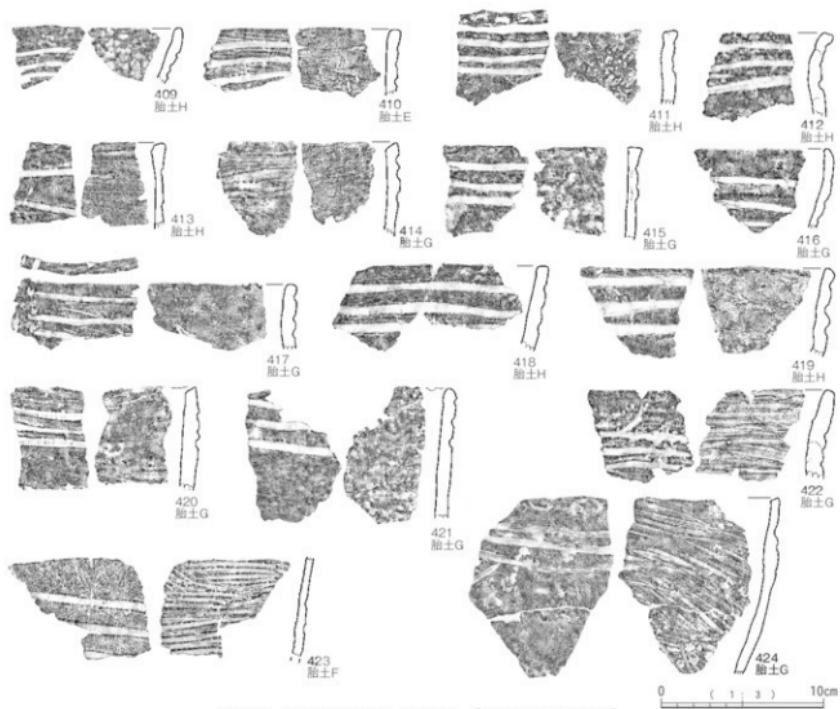


第74図 7B類土器実測図 (3) 【3本並行沈線文2】

え。波頂部とその両側の3か所を工具で刻み、その間の口唇部は平坦に撫でて仕上げている。波頂部に施された縦2段、横3列の刺突線を起点に、口縁部に沿って右側に3本、左側に2本の沈線文が展開する。胴部上部から口縁部及び内面の口唇部周辺は丁寧に撫でられているが、内面の大部分は横方向の粗い工具ナデで仕上げられている。内面は剥落が激しい。

409は沈線文が若干細く短沈線を繋ぐ特徴は維持される。器壁は薄いが胎土には大小の凝灰岩粒が多く含まれる。

410の沈線も若干細く、器面には条痕が残る。411の口唇部の刺突は、貝殻を口唇部に沿って横位に施される。412は口縁端部で外反する。413は内面を丁寧に撫で、口唇部はやや厚く丸く仕上げられる。414の口縁部も若干内弯する傾向で、上位2本の沈線文に比べると3本目の沈線文は浅く施される。415の口唇部は平坦で口唇端部は外側に張り出し、沈線文は若干細い。416は器壁が薄く口縁部は内弯する。417は沈線文が間隔をおいて施され、始点と終点が強調される。418, 419の口唇部は丁寧



第75図 7B類土器実測図 (4) 【3本並行沈線文3】

に丸く撫でて仕上げられる。420は緩やかな波状口縁を呈する。421は緩やかな波状口縁である。422の内面は条痕による仕上げとなる。423は401と同一個体と判断する。424は内面に条痕と輪積み痕が観察される。

425は施文帯が丁寧に撫でられ、沈線は粘土を掻き取る様に施されている。426は器壁が厚く、胎土も大粒の凝灰岩粒を含む。427も施文帯が丁寧に撫でられ、沈線は粘土を掻き取る様に施されている。沈線は間隔をおいて施され、始点と終点が強調される。428の口唇部は平坦に仕上げられている。429は外表面ともに丁寧なナデ仕上げとなる。430の沈線文は明瞭でいずれも器面は丁寧なナデにより仕上げられている。431は器壁が薄く、沈線文間もやや間延びする。432の3本目の沈線内には円形の穿孔がみられる。433は口縁端部が如意状に外反する口縁部で、3本で構成される沈線文は、施文区画の間で段差を付けた可能性があり、短沈線を深く押す部分が施文区画の起点とみられる。なお、口唇部は二枚貝による刻みが施されるが二枚貝の刺突角度が変わるもの位置が施文区画の起点と一致する。434は口唇端部が若干張り出す形状を呈する。435は全体的に器壁が厚く、口

唇部は鋸齒状に刻まれている。胎土は大粒の砂粒を大量に含み、器面はザラザラした質感を呈する。436は3本の沈線文全てがS字の変形文の可能性が高い。両面ともに丁寧に撫でられ、外面は光沢を保っている。胎土は凝灰岩粒や長石粒を主体に角閃石を含む。437は施文が変化する可能性が高い。438の口唇部はやや内傾するものの平坦面が形成される。器壁は基本的に厚く、深くて明瞭な沈線によりS字の変形文が施される。ただし、施文帯に肥厚の傾向はみられない。胎土は粗く、凝灰岩粒や砂粒によりザラザラした器面を呈する。439は深く鮮明な沈線文が施され、上位2本が口縁部に沿って周回し、2本目が分岐して菱形の空間を作り出し、その間を沈線で充填する。器壁は厚く、胎土に大粒の凝灰岩粒を含む。440は口縁部が大きく外反し、口唇端部は親指を外側にして人差し指で左回りに摘むようにして整形される。最上位は短沈線を繋ぎ合わせて施文されており、下位の2本は並走して鉤形文を構成する。胎土は砂粒を多く含むため器面はザラザラし、やや軟質の焼成を示す。

441は波頂部付近の資料で内面には輪積み痕が残されている。442の口唇部は平坦である。443では浅めの短沈



第76図 7B類土器実測図 (5) 【3本並行沈線文4】

0 (1 : 3) 10cm

線が繰り返し繋ぎ合わされている。444の沈線は若干細い。445は器壁が薄く沈線も浅い。446の外面は黒褐色を呈し、内面は赤褐色に発色する。重量感のある硬質土器である。447の沈線は若干細い。448は口縁端部で外反する。449は砂粒の多い胎土を使用しており、器面はザラザラした質感を呈する。450の口縁部は肥厚する。451は波頂部を起点とする沈線施文の変換点に相当し、沈線文はやや細い。452は口縁部が内湾する小型鉢形土器で、内面は横方向のヘラナデで仕上げられている。453の波頂部上面には横方向の四線文がみられる。454の施文帶

は丁寧なナデが施されており、沈線は粘土を搔き取る様に施文されている。455は短沈線の繋ぎ目がよくみられ、沈線文の周縁は光沢を保っている。456の沈線内にはスึが残る。457の器面は褐色を呈する。458の口唇部は工具で深く刻まれている。459の波頂部は工具で押さされているが、沈線文は浅い。460の沈線文は明瞭で、いずれも器面は丁寧に撫でられ、ねじり紐で突起部が設けられている。461の形状は定かでないが、口唇部が外に傾く特徴などから広口の鉢形土器が想定される。



第77図 7B類土器実測図（6）【3本並行沈線文5】

第28表 7類土器觀察表(13)

種別	形態	記上No.	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	附土	備考
		10012	15.161	15.259	144.168	Ⅲ	B-2		
		10044	14.608	16.765	144.150	Ⅲ	B-2		
		10092	15.323	17.482	144.227	Ⅲ	B-2		
		12845	14.503	16.749	144.081	Ⅲ	B-2		
		12893	15.487	17.817	144.207	Ⅲ	B-2		
		12899	14.944	17.432	144.143	Ⅲ	B-2		
		12905	14.806	17.631	144.142	Ⅲ	B-2		
		12967	12.739	15.665	143.824	Ⅲ	B-2		H
		15140	13.319	16.234	143.896	Ⅲ	B-2		
		16276	13.774	15.986	143.889	Ⅲ	B-2		
		16279	12.688	15.675	143.752	Ⅲ	B-2		
		17365	13.908	15.432	143.796	Ⅲ	B-2		
		17391	13.641	15.742	143.763	Ⅲ	B-2		
		17994	14.013	15.494	143.761	Ⅲ	B-2		
		18708	11.127	16.335	143.542	Ⅲ	B-2		
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-2		
		13926	22.279	25.883	144.661	Ⅲ	C-3		
		13927	22.279	25.782	144.679	Ⅲ	C-3		H
		15179	20.398	89.066	143.279	Ⅲ	C-9		H
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9		
		5489	20.256	89.775	143.950	Ⅲ	C-9		
		14455	19.956	90.930	143.309	Ⅲ	B-10		
		15506	19.964	90.826	143.268	Ⅲ	B-10		F
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-10		
		13863	24.361	26.716	144.652	Ⅲ	C-3		
		14747	24.264	26.343	144.553	Ⅲ	C-3		
		16048	23.884	26.806	144.462	Ⅲ	N-C-3		G
		16487	23.893	26.460	144.453	Ⅲ	C-3		
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-3		
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-3		
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-3		
		6330	18.993	79.324	143.496	Ⅲ	B-8		
		9125	19.003	79.303	143.444	Ⅲ	B-8		
		13760	18.827	79.326	143.387	Ⅲ	B-8		
		13762	19.025	79.382	143.401	Ⅲ	B-8		
		13764	19.194	79.500	143.438	Ⅲ	B-8		
		13770	19.003	79.546	143.406	Ⅲ	B-8		
		13772	18.879	79.409	143.410	Ⅲ	B-8		
		13781	19.808	79.678	143.494	Ⅲ	B-8		
		15710	18.804	79.431	143.386	Ⅲ	B-8		
		15712	18.965	79.566	143.379	Ⅲ	B-8		
		15713	18.962	79.452	143.390	Ⅲ	B-8		H
		15714	18.979	79.372	143.393	Ⅲ	B-8		
		15715	18.997	79.405	143.391	Ⅲ	B-8		
		15716	19.014	79.540	143.363	Ⅲ	B-8		
		15717	19.132	79.564	143.385	Ⅲ	B-8		
		15718	19.116	79.613	143.385	Ⅲ	B-8		
		15722	19.456	79.705	143.421	Ⅲ	B-8		
		16767	19.013	79.485	143.351	Ⅲ	B-8		
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-8		
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-8		
		404	5932	24.743	75.554	144.447	Ⅲ	C-8	H
		3816	26.683	80.639	144.155	Ⅲ	C-9		
		3817	26.747	80.564	144.178	Ⅲ	C-9		
		3818	26.628	80.514	144.200	Ⅲ	C-9		
		5287	27.309	83.861	144.300	Ⅲ	C-9		
		5312	27.267	83.356	144.067	Ⅲ	C-9		F
		5397	26.719	80.626	144.167	Ⅲ	C-9		
		5398	26.669	80.484	144.168	Ⅲ	C-9		
		5399	26.733	80.486	144.182	Ⅲ	C-9		
		6749	26.692	80.512	144.151	Ⅲ	C-9		
		39124	9.527	41.946	144.213	Ⅲ	A-5		
		39125	9.530	41.864	144.210	Ⅲ	A-5		
		39126	9.672	41.866	144.219	Ⅲ	A-5		
		40369	8.684	40.610	144.009	Ⅲ	A-5		G
		40407	9.579	41.810	144.212	Ⅲ	A-5		
		40407	9.747	41.727	144.160	Ⅲ	A-5		
		40407	9.643	41.960	144.196	Ⅲ	A-5		
		40408	9.790	41.917	144.190	Ⅲ	A-5		
		1723	25.292	79.640	144.226	Ⅲ	C-8		
		5800	25.759	79.658	144.196	Ⅲ	C-8		
		11139	25.609	79.751	144.143	Ⅲ	C-8		H
		11140	25.897	79.950	144.096	Ⅲ	C-8		
		10201	22.820	21.244	144.660	Ⅲ	C-3		
		10378	22.926	27.145	144.848	Ⅲ	C-3		
		13137	22.843	21.141	144.606	Ⅲ	C-3		G
		13140	22.913	21.394	144.664	Ⅲ	C-3		
		13145	22.976	21.678	144.727	Ⅲ	C-3		

第29表 7類土器觀察表(14)

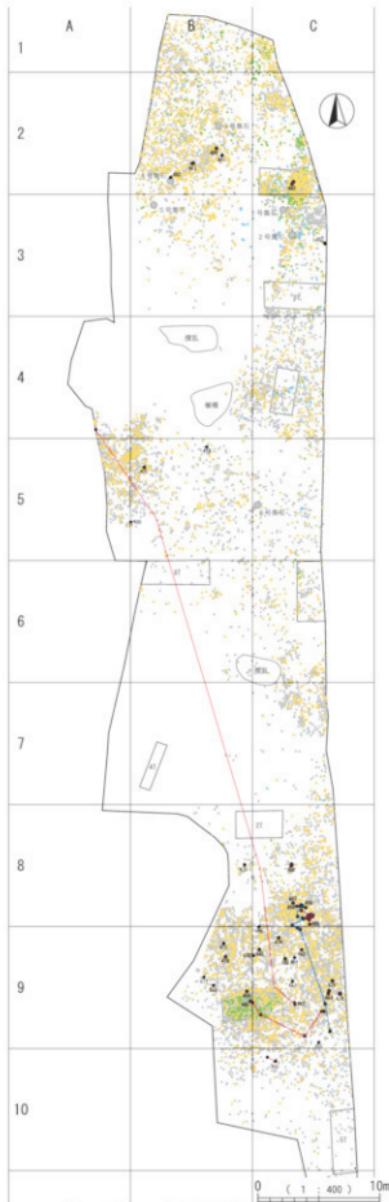
種別	形態	記上No.	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	附土	備考
74	408	13860	22.957	21.436	144.641	Ⅲ	C-3		
		13867	23.336	21.396	144.275	Ⅲ	C-3	G	
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-3		
		409	13571	24.753	84.916	142.742	Ⅲ	C-9	H
		410	14016	21.916	89.659	142.473	Ⅲ	C-9	
		411	-B	0.000	0.000	0.000	I	C-6	H
		412	-B	0.000	0.000	0.000	B	B-9	H
		413	1505	23.899	77.525	144.243	E	C-8	H
		414	13726	23.628	80.046	142.899	Ⅲ	C-9	G
		415	40354	7.697	40.770	143.967	Ⅲ	A-5	G
		416	7170	25.407	70.945	144.606	Ⅲ	C-6	G
		417	6523	20.328	86.938	143.101	Ⅲ	C-9	G
		38990	10.467	39.061	144.193	Ⅲ	B-4		
		41244	10.523	36.916	144.118	Ⅲ	B-4		
		419	5312	27.267	83.356	144.067	Ⅲ	C-9	H
		420	14259	12.873	8.240	143.560	Ⅲ	B-1	G
		421	38438	8.363	46.877	143.898	Ⅲ	A-5	G
		422	15479	20.761	82.359	143.395	Ⅲ	C-9	G
		423	19437	18.143	89.700	142.955	Ⅲ	B-9	
		424	19454	18.258	87.938	142.866	Ⅲ	B-9	
		425	10534	20.645	90.156	143.469	Ⅲ	C-10	G
		426	5317	27.116	82.642	144.033	Ⅲ	C-9	
		430	5509	23.053	89.446	143.761	Ⅲ	C-9	
		434	40297	8.341	42.269	144.044	Ⅲ	A-5	G
		435	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-4,5	
		436	8824	18.373	86.957	142.945	Ⅲ	B-9	
		437	11671	22.186	82.099	143.662	Ⅲ	C-9	G
		438	12792	18.589	16.394	144.340	Ⅲ	B-2	H
		5356	27.197	81.422	144.160	Ⅲ	C-9		
		5374	27.130	81.163	144.144	Ⅲ	C-9		
		441	17696	29.104	87.992	142.223	Ⅲ	C-9	
		442	17667	29.037	86.075	143.217	Ⅲ	B-9	
		443	17627	20.033	86.109	143.270	Ⅲ	C-9	
		444	17628	20.030	86.056	143.202	Ⅲ	C-9	
		445	18251	19.011	87.826	143.147	Ⅲ	B-9	G
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9		
		446	9915	15.886	6.386	143.863	Ⅲ	B-1	G
		440	14942	13.921	16.903	143.993	Ⅲ	B-2	G
		444	14035	26.398	87.020	143.666	Ⅲ	C-9	H
		445	14630	24.009	20.276	144.671	Ⅲ	C-3	G
		446	5223	26.630	86.515	143.945	Ⅲ	C-9	
		447	11716	21.838	81.889	143.632	Ⅲ	C-9	
		448	14523	25.466	86.116	143.614	Ⅲ	C-9	H
		449	13035	20.346	12.288	144.203	Ⅲ	C-2	H
		450	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-2	
		450	8804	26.900	81.329	144.078	Ⅲ	C-9	
		451	16713	16.469	82.816	142.784	Ⅲ	B-9	H
		452	13077	20.903	12.757	144.215	Ⅲ	C-2	G
		453	17283	17.713	15.468	144.160	Ⅲ	B-2	
		453	7383	23.359	19.079	144.463	Ⅲ	C-2	H
		454	-B	0.000	0.000	0.000	I	B-2	
		455	15750	21.259	89.003	143.294	Ⅲ	C-9	
		456	39064	10.669	42.349	144.380	Ⅲ	B-5	E
		457	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-3	G
		458	18217	19.312	9.405	143.156	Ⅲ	B-10	
		459	19916	27.171	79.312	144.268	Ⅲ	C-6	F
		460	13980	20.542	91.894	143.494	Ⅲ	C-10	F
		460	15929	22.168	84.399	143.247	Ⅲ	C-9	F
		461	15529	24.172	90.844	143.633	Ⅲ	C-10	
		461	19077	22.426	87.647	143.232	Ⅲ	C-9	H
		-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-10		

7B類4本並行沈線文

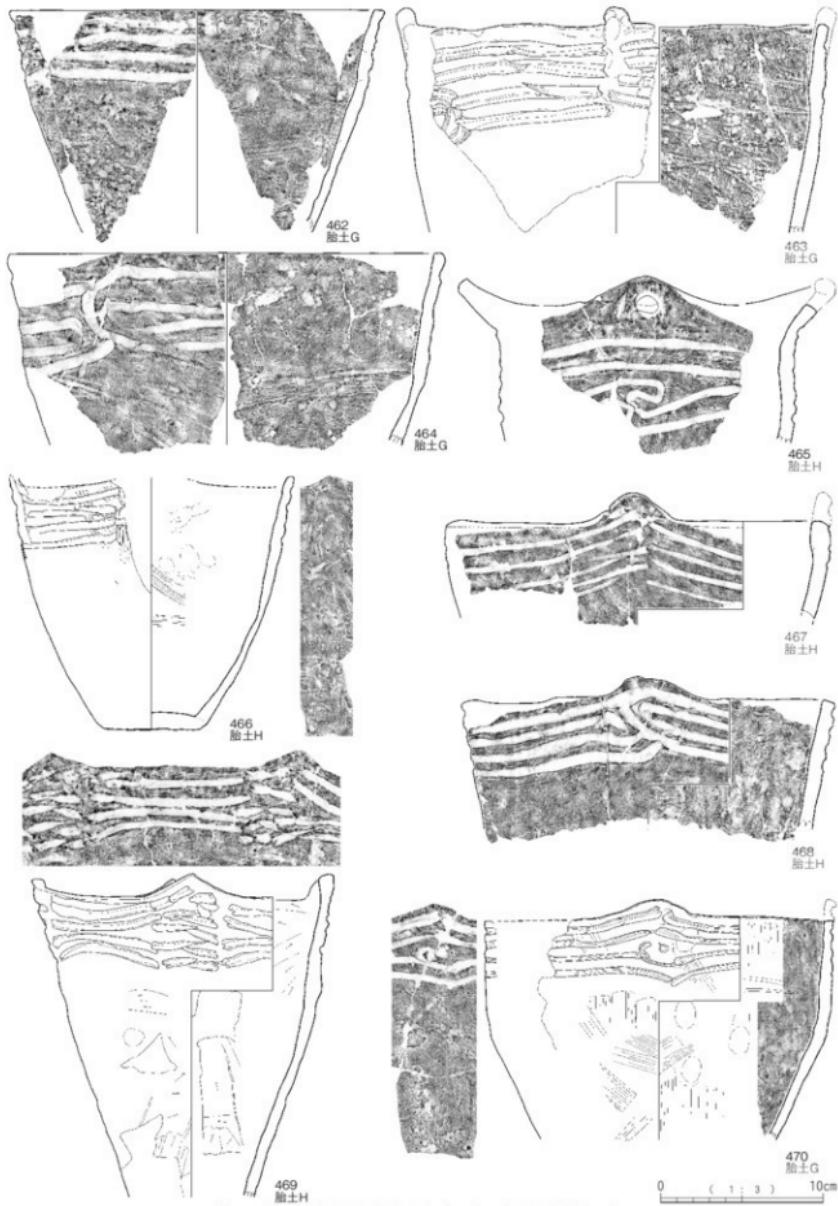
口縁部から頭部、胴部上部に、沈線文4本で施した土器である。

462は復元口径23cmで、胴部下位から開きながら直線的に立ち上がる資料である。内面の輪積み痕は残るが、やや丁寧な仕上がりを見せる。外面ではヘラナデ調整後そのまま施文を行っている。463は復元口径27cmで、4か所に粘土紐の貼り付けによる筒状突起を持つ。貼り付けは口唇部を挟むように行われ、これを起点に文様が構成される。施文具は筋状痕の明瞭な半截竹管状工具で左から右方向に移動しながら施文し、3本目と4本目の中间には円文が付される。胎土は大粒の凝灰岩粒を含み、石英粒等は極めて少ない。器面調整はヘラナデで、施文帯は丁寧に行うが内面は粗い調整で終えている。464は復元口径26.6cmで、沈線文は浅い。465は復元口径23.2cmで、波頂部下位に明かり窓を持つ深鉢形土器である。口縁部は外反する。口唇部は丸く頑丈に造られ、脛曲部の施文帯は周回する2本の沈線文と鉤形文で文様を構成する。内外面ともに丁寧に撫でられ、外面は若干光沢を保つ。466は復元口径17.5cm、高さ15.6cm、底部径6cm程度で4か所の波頂部を備えるとみられ。波頂部間を並走する4本の沈線文で文様を構成する。沈線は条痕仕上げの器面にそのまま重ねて施文されているため、沈線文間に条痕が明瞭に残される。胴部以下の器面調整は、基本的に縱方向に施している。467は波頂部を起点とし、浅くやや細い沈線文が口縁部に沿って周回する。施文帯から口唇部にかけてとその内側は丁寧なナデにより仕上げられている。468は復元口径23cm程で、高さの異なる突起部を備える。施文は高位の突起部を起点とし、低位の突起部を沈線文の転換点とする。文様構成は一見4本の並走沈線文に見えるが突起部間の区画文として長梢円形文等の曲線文も併用する。胎土は細かいが大粒の凝灰岩粒を含み、器面は丁寧に撫でられる。なお、沈線内には多量のスヌが残る。469は復元口径18.6cmで、4か所の波頂部を起点に文様が構成される。470は復元口径21.5cmで4本の沈線文は波頂部を起点とする上下2本1組の並走する沈線で構成され、2本目と3本目の中央には2つの凹点文を配す。器面調整は施文帯は丁寧に撫でられるが、内面調整は粗雑さが目立ち輪積み痕や指頭による縱方向のナデ痕が明瞭に残る。胎土には大粒の凝灰岩粒の他石英粒や長石粒、角閃石が確認できる。

471は沈線文がやや細く、胎土は凝灰岩粒や長石粒に混じり岩片も含まれる。472は大粒の凝灰岩粒を多く含む。473の口唇部刻みは半截竹管状工具で施文され、沈線内にはスヌが残る。474.475の胎土には小豆色に発色する3mm程の粒子が散在する。476の口唇部は外に傾く。477は口唇部も含め内外面ともに丁寧なナデにより仕上げられている。4本の並走する沈線文は口縁部に集中し、その沈線内にはスヌの付着もみられる。478は口唇部が丸く作出され、丁寧なナデにより光沢を保つ。沈線文は

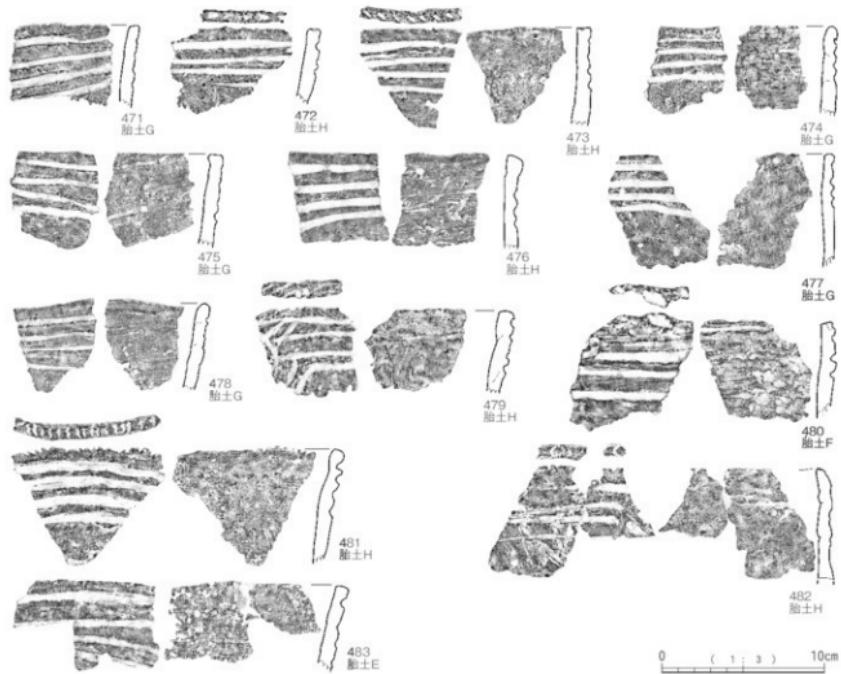


第78図 7B類土器分布図(3)



第79図 7B類土器実測図（7）【4本並行沈線文1】

0 (1 : 3) 10cm

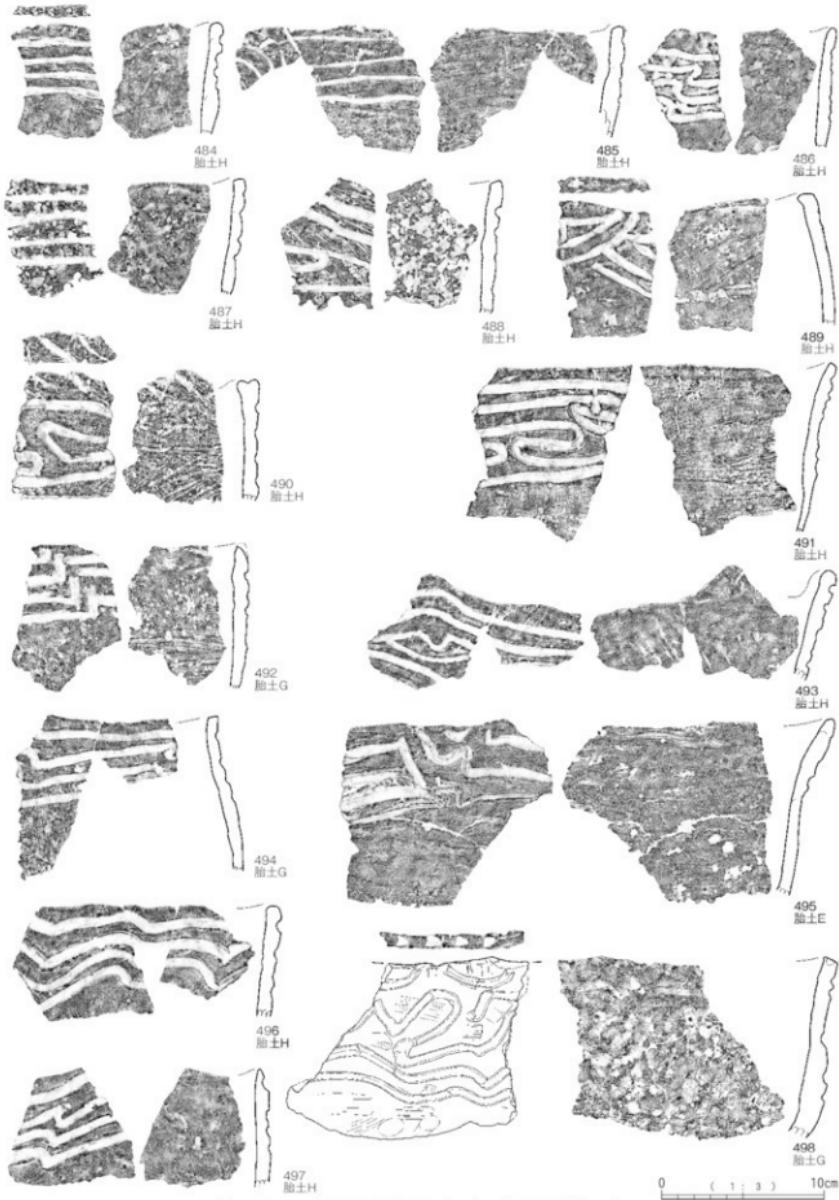


第80図 7B類土器実測図 (8) 【4本並行沈線文2】

やや細く、胎土は硬質で凝灰岩粒が多数含まれる。479は詳細な文様構成は不明であるが、沈線4本の構成となっている。なお、内面最上位の輪積み痕は明瞭に残されている。480は口唇端部が又状を呈す工具で斜めに深く刻まれる。481の口唇部は二枚貝で連続して刻みが施され、沈線文は口縁部に集中する。胎土は凝灰岩粒を含む砂質のもので、器面はザラザラした質感を呈する。内面には指頭押さえの調整痕がそのまま残る。482の口唇部も二枚貝で刻まれる。483は胎土に凝灰岩粒や長石粒、角閃石を含み、狭い口唇部は平坦面をなす。

484は口唇部を二枚貝で刻み、内面には輪積み痕、沈線内にはススが付着する。485は綏やかな波状口縁で、低い突起が作出された可能性がある。丸みをなす口唇部周辺は指頭で整形される。波頂部は剥落しているが、文様構成は波頂部を起点に施文される。外面にはススが付着し、内面では輪積み痕が観察できる。486は施文帶下位に、鈎形文が構成される。487は器面の風化が激しく、内面調整は粗く輪積み痕がそのまま残される。488は胎土に長石粒を多く含む。489も詳細な文様構成は分からぬが、区画文が施される。490はねじり縫を貼り付け、上下を周回する2本の沈線文間に長梢円文を施す。

491は丁寧な器面調整が施され、並走する2本の沈線文の下位にS字状の変形文等が構成される。492は鈎形文を構成し、沈線内にススの付着がみられる。493は波頂部を施文の起点とするもので、並走する2本目と3本目間に菱形の施文域を形成する。施文帯は光沢を保つ程丁寧なナデにより仕上げられており、内面も指頭により丁寧に押さえられている。大粒の凝灰岩粒や長石粒を多量に含む。494は平坦な口唇部が波頂部に連続し、中2本の沈線は靴形文を構成し、沈線内にはススが残る。495は外反し若干肥厚する口縁部に、やや広めの沈線でS字の変形文等を並走して描く。496の器壁はやや厚く、口唇部は指頭で撫でられている。4本の沈線全てが鈎形文を構成し、2本目と3本目が並走する。497は口縁部にかけて器壁が薄くなるもので、堅牢に焼成されているが傾きは不明である。現資料からは最上位が口縁部に沿って周回し、下位3本が並走して鈎形文を構成する。498は広口の鉢形土器とみられ、中でも胴部下位の器壁が厚く重量感がある。平坦な口唇部は半截竹管状工具で刻みが施され、最上位には口縁部との間に弧状の短沈線を繰り返して施文し、最下位2本の並行する鈎形文の間には屈曲文を充填する。



第81図 7B類土器実測図（9）【4本並行沈線文3】

第30表 7類土器観察表(15)

発掘No.	出土地	地層	層位	Z層	層位	基準	グリッド	胎土	備考
462	2060	23.255	19.152	144.544	Ⅲ	C-2	G		
	7354	23.376	18.972	144.459	Ⅲ	C-2			
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	I	C-2			
	12987	15.162	17.444	144.165	Ⅲ	B-2	G		
	15168	15.067	17.480	144.141	Ⅲ	B-2			
	2404	26.237	85.485	144.044	Ⅲ	C-9			
464	10720	26.307	85.252	143.838	Ⅲ	C-9			
	11301	26.291	85.328	143.784	Ⅲ	C-9	G		
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9			
465	12129	21.233	90.713	143.638	Ⅲ	C-10			
	14450	21.183	91.034	143.449	Ⅲ	C-10	H		
	5879	24.378	78.443	141.171	Ⅲ	C-8			
	11748	23.876	80.093	143.875	Ⅲ	C-9			
	11752	23.822	80.233	143.696	Ⅲ	C-9			
	11880	23.281	79.699	143.675	Ⅲ	C-6			
	14025	23.712	79.176	143.652	Ⅲ	C-6			
	14044	24.102	78.338	143.617	Ⅲ	C-6			
	14050	24.107	79.303	143.685	Ⅲ	C-6	H		
	14052	24.162	78.396	143.694	Ⅲ	C-6			
	16981	24.049	78.215	143.746	Ⅲ	C-6			
	19159	25.980	88.024	143.504	Ⅲ	C-9			
	19162	26.360	88.573	143.562	Ⅲ	C-9			
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-8			
	16906	23.472	88.253	143.406	Ⅲ	C-9			
	19098	23.466	88.361	143.337	Ⅲ	C-9			
467	41436	7.158	39.277	143.847	Ⅲ	A-4			
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9			
	3194	20.026	88.239	143.338	Ⅲ	C-9			
	4200	20.695	87.240	143.328	Ⅲ	C-9			
	4253	19.831	88.112	143.179	Ⅲ	B-9			
	5218	25.880	88.943	143.908	Ⅲ	C-9			
	6656	25.698	88.970	143.929	Ⅲ	C-9			
	15616	24.289	88.970	143.497	Ⅲ	C-9			
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9			
	7068	24.707	79.815	144.110	Ⅲ	C-6			
	11161	24.071	78.443	144.078	Ⅲ	C-6			
	11166	24.229	79.211	144.093	Ⅲ	C-6			
	11168	24.015	79.199	144.091	Ⅲ	C-6			
	11169	24.982	79.006	144.096	Ⅲ	C-6			
	11170	24.838	79.036	144.090	Ⅲ	C-6			
	11171	24.825	79.136	144.099	Ⅲ	C-6			
	11172	24.800	79.067	144.079	Ⅲ	C-6			
	11173	24.703	79.053	144.081	Ⅲ	C-6			
	11185	24.027	78.664	144.042	Ⅲ	C-6			
	11187	24.027	79.141	144.067	Ⅲ	C-6			
	11188	24.027	79.177	144.042	Ⅲ	C-6			
	11189	24.751	79.211	144.031	Ⅲ	C-6			

7B類5本以上並行沈線文

口縁部から頭部、胴部上部に、5本以上の沈線文で施された土器である。

499は復元口径25.5cmで、低い波頭部上面は二枚貝で刻まれる。沈線文は若干浅く、並走する5本は鉤形に屈曲する。施文帯は丁寧に撫でられるが、内面は横走する粗いヘラナデがそのまま残る。500は復元口径29.8cmの深鉢形土器で、7か所の山形突起部を持つとみられる。突起部の頂部は深く抉られており、施文帯は5本の深くて明瞭な沈線文で構成される。沈線文の上位2本は突起部を起点に規則的に周回しており、下位3本は鉤形等の屈曲文を構成しながら周回する。施文帯と口唇部は丁寧なナデ調整がみられるが、内面は横方向の工具ナデで調整を終えている。なお、沈線文は深く、胎土には大粒の凝灰岩粒のほか長石粒や石英粒に混じり角閃石が含まれる。501は復元口径は34.6cmの深鉢形土器で、4か所の突起を作出する。現存する2か所の突起には、口唇部に横位に貼り付ける山形のものと縦位に貼り付ける棒状のものがあり、その間は緩やかな波状の口縁をなす。沈

第31表 7類土器観察表(16)

発掘No.	出土地	地層	層位	Z層	層位	基準	グリッド	胎土	備考
469	11820	24.722	79.237	144.034	Ⅲ	C-6			
	11838	24.455	79.307	143.976	Ⅲ	C-6			
	11841	24.584	79.047	143.996	Ⅲ	C-6			H
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-6			
79	14046	27.184	85.546	143.748	Ⅲ	C-9			
	14056	27.177	85.481	143.667	Ⅲ	C-9			
	470	19168	27.202	85.509	143.583	Ⅲ	C-9		G
		78717	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9		
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9			
	471	15678	17.656	81.376	143.080	Ⅲ	B-9	G	
	472	36260	11.133	42.364	144.471	Ⅲ	B-5	H	
	473	7281	19.358	74.017	143.982	Ⅲ	B-8	H	
	474	-	0.000	0.000	0.000	I	A-5	G	
	475	6618	26.557	64.444	143.941	Ⅲ	C-9	G	
	476	14176	22.156	80.920	143.778	Ⅲ	C-9	H	
	477	19464	16.024	84.157	142.528	Ⅲ	B-9	G	
	478	3256	16.270	40.696	144.612	Ⅲ	B-5	G	
	479	15601	17.808	82.456	143.099	Ⅲ	B-9	H	
	480	14091	20.090	82.365	143.359	Ⅲ	C-9	F	
	481	15103	17.494	81.816	144.300	Ⅲ	B-2	H	
	482	14675	25.960	24.049	144.652	Ⅲ	C-3	H	
	483	16512	25.950	23.996	144.442	V	C-3		
		14185	20.586	81.685	143.398	Ⅲ	C-9	E	
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9			
	484	18318	19.550	85.306	143.254	Ⅲ	B-9	H	
	485	11652	22.696	82.638	143.707	Ⅲ	C-9		
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	H		
	486	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9		
	487	11929	23.341	78.096	143.907	Ⅲ	C-8	H	
	488	17295	17.051	16.234	144.177	Ⅲ	B-2	H	
	489	18981	16.787	84.823	142.669	Ⅲ	B-9	H	
	490	8363	20.566	80.020	143.601	Ⅲ	C-9	H	
	491	11631	23.457	82.542	143.755	Ⅲ	C-9	H	
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9			
	492	12942	13.285	88.603	144.090	Ⅲ	B-2	G	
	493	14154	24.038	81.913	143.761	Ⅲ	C-9	H	
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9			
	494	11935	23.908	78.327	143.943	Ⅲ	C-8	G	
	13825	25.647	78.331	143.927	Ⅲ	C-8			
	495	14010	26.455	89.490	143.604	Ⅲ	C-9	E	
	13843	23.178	78.022	144.032	Ⅲ	C-8			
	496	16921	23.269	74.950	143.974	Ⅲ	C-6	H	
	16922	23.229	74.684	143.980	Ⅲ	C-6			
	497	5505	23.297	84.476	143.811	Ⅲ	C-9	H	
		40245	10.917	46.850	144.124	Ⅲ	B-5		
	498	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	A-4.5	G	
	-Ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	A-4.5			

線は筋状痕の明瞭な施文具を用い、左から右方向へ描かれる。最大径が口縁部にくる深鉢形土器で、胴部上部から口縁部にかけては丁寧なナデ調整、胴部下部は継方向の工具調整、内面は横方向の工具ナデで指揮され、輪積み痕も確認できる。502は口唇部平坦面に工具による斜め方向の刻みが施され、工具ナデで仕上げた器面には筋状痕の明瞭な沈線文が施文されるが、部分的には指頭による施文の可能性もある。内面は下部はヘラ、上部は指で丁寧に撫でられ、大粒の凝灰岩粒を含む胎土を使用する。

503は口縁部が直行する形状で、30cm程の口径が復元できる。沈線文に口縁部及び口唇部の二枚貝刻みが先行し、沈線文は上下で沈線幅の使い分けが行われている。器面は丁寧に撫でられその上に流麗な文様が施されるが、内面は粗い条痕直上げがそのまま残され、器面は橙色に近い色調に発色する。504は口唇部にねじり紐を貼付し、最大径となる胴部上部から口縁部を施文帯とする。施文帯の広い土器で、最上位が周回する幅広沈線文、最下位が鉤形文でその間は渦巻き文を中心にして沈線文を充填する。

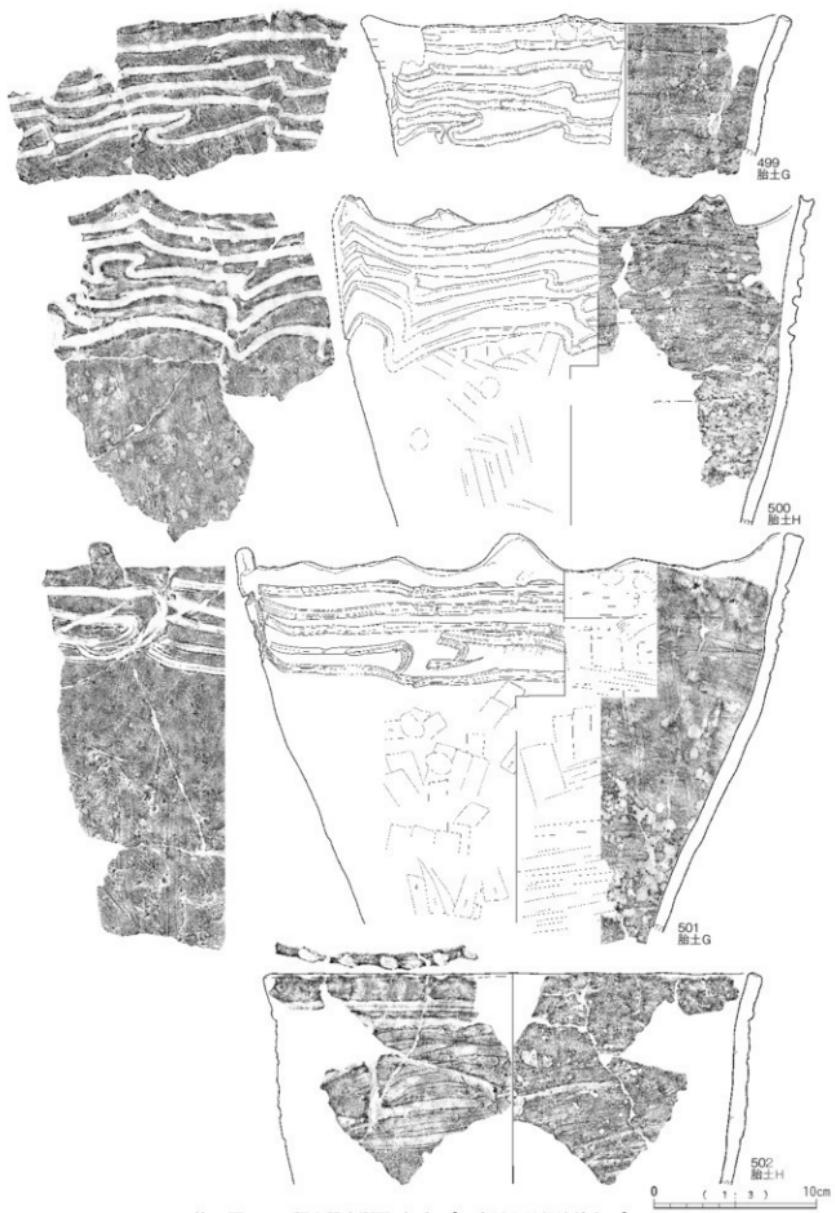
施文帶は撫でられ、内面は横方向の粗い工具ナデで調整が行われる。肌色に発色する個性的な器面で、硬質な仕上がりであるが、胎土には径5mm程の大粒の凝灰岩粒を多く含む。505は復元口径39cmの深鉢形土器で、7か所の山形突起を備える。7か所の突起を含め口唇部はナデによる仕上げとなるが、突起上面は台形状をなすものもある。なお突起内側は全て大小2個のV字状の短沈線文(凹線文)が施される。器面調整はヘラナデを基調とし、施文帶と内面の上位と下位をナデ、内面の中央部はヘラナデで仕上げている。図示した2個の補修孔は、補修孔の中央部を斜めに走る亀裂に対処することが目的であったとみられる。なお、7か所の突起部のそれぞれの下位には、上下に並走する2本の沈線文間に菱形の施文域が形成されている。また、口縁部の一か所には二枚貝による縱方向の連続刻みを撫で消した痕跡がみられる。

506は32.8cmの口径を復元しているが、若干疑問も残る。狭く平坦な口唇部は緩やかな波状を成し、ナデにより仕上げられた施文帶にS字の変形文等が描かれる。薄手硬質の焼成である。507は傾き等は不明であるが、二枚貝による刺突文を沈線文で囲む。508は多重の沈線文で文様を構成する。509の口唇部は平坦で、浅いが端正な沈線文がみられる。510.511.512.513は細い多重の沈線文で文様を構成し、511は口唇部を平坦に整形する。512は器形は明らかでないが大型土器の可能性が高く、丁寧な器面調整が施される。514は口縁部が直行する。515は特に内面の風化が著しく器面調整等は判読できない。5～6本の並走する浅い沈線文が、口縁部を周回する。516は並走する5本の沈線文で文様を構成し、若干丸めの口唇部は内面上位を含めて指頭で丁寧に撫でられている。なお、施文帶から口縁部にススの付着がみられ、重量感のある資料である。518の口唇部刻みは位置により変化し、519は口縁部下位に3筋に加工した二枚貝を6段垂直に刺突した上で、同一工具で口縁部に沿って2列周回施文する。520は大型土器で傾き等は不明である。器壁の厚い硬質仕上げで、口唇部は指頭で凹点文を施し、沈線文は綴列は上から、横列は右を起点に施されている。胎土には長石粒に混じり雲母も確認される。なお、内面が板状に剥落することから、薄い粘土板を張り付けて製作したとみられる。

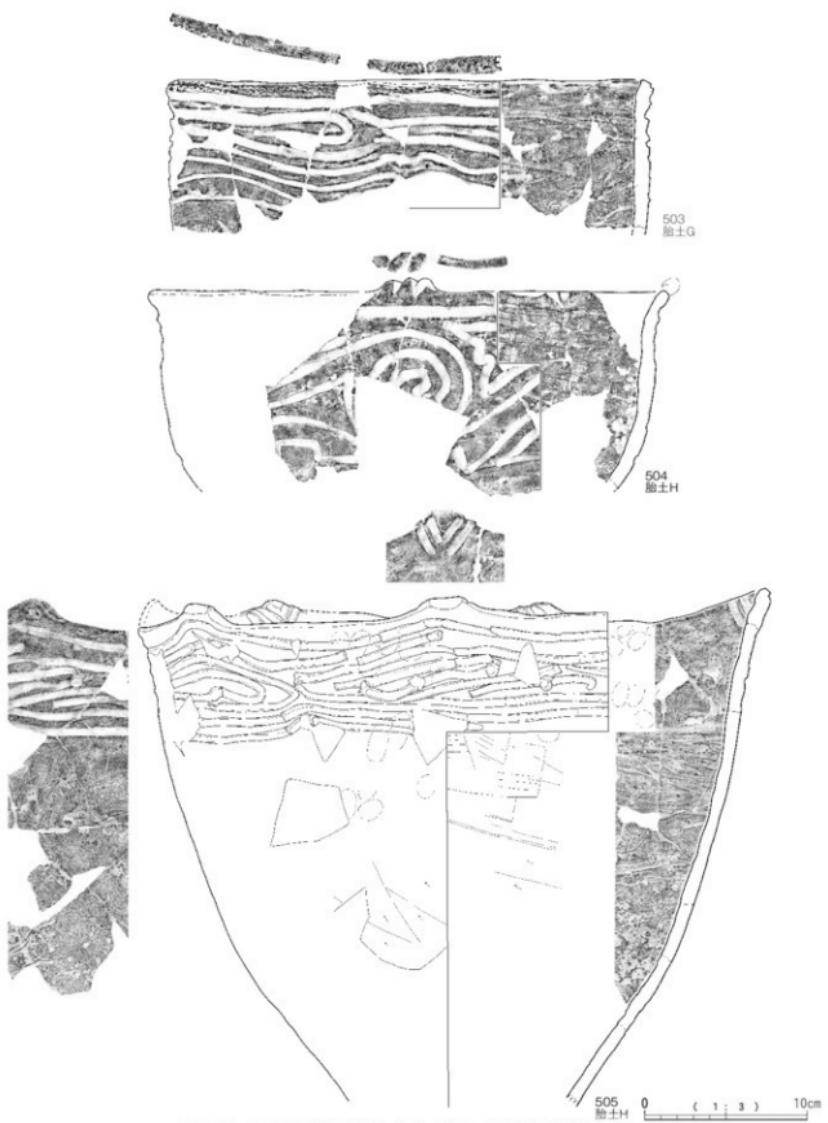
521は緩やかな波状口縁で、頂部の一部には工具で深く刻みが施される。上下2組の並行沈線文間に長短の深く明瞭な曲線文を充填する。両面とも入念なナデによる仕上げが施され光沢を保つが、肌色の器面は二次焼成により黒褐色となっている。なお、胎土には大粒の凝灰岩粒を含む。522は長石粒の目立つ胎土で、器壁は厚い。5本の波状に並走する沈線文と口縁部間に取り残した三角形施文帯に、U字状の沈線文を充填する。523は524と類似する。満巻き文を中心に多彩な沈線文がみられる。525は外反する口縁部で、ナデにより仕上げられた施文帶にC字状文等の曲線文が描かれる。526の器面は光沢



第82図 7B類土器分布図(4)



第83図 7B類土器実測図 (10) 【5本以上並行沈線文 1】



第84図 7B類土器実測図 (11) 【5本以上並行沈線文2】

を保ち、端正な沈線文が残され、口唇部は二枚貝で刻まれる。527の口唇部は平坦で、528の口唇部は内側に段がつく。529は内面に輪積み痕等を残しており調整は粗い

が、外面には多重沈線による屈曲文がみられる。530の沈線文はやや細く、内面の輪積み痕も明瞭に観察される。531は明橙色の色調で深く明瞭な文様がみられる。532

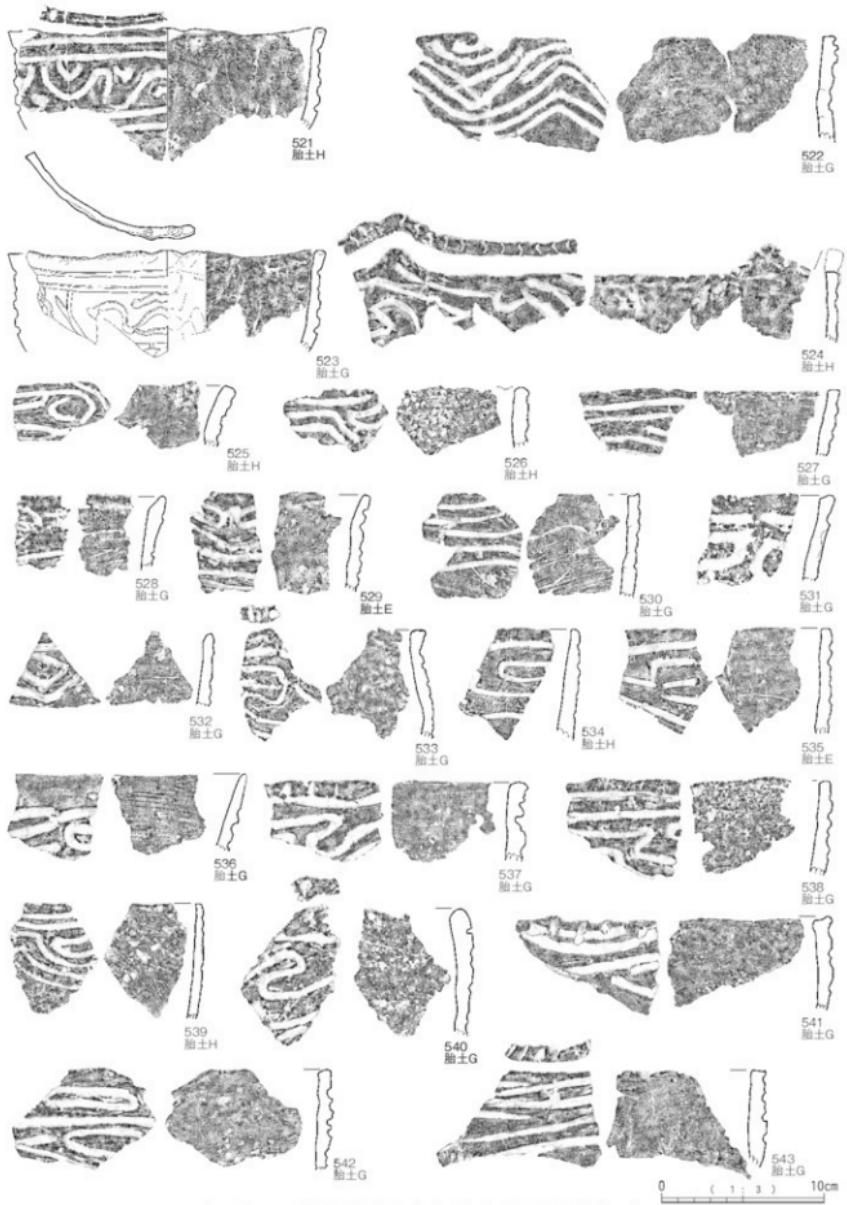


第85図 7B類土器実測図 (12) 【5本以上並行沈線文3】

は菱形文、533.534.535では長梢円文等の相互に類似した文様がみられる。536は傾き等に若干疑問が残るもの、胎土は薄手硬質で大粒の凝灰岩粒が目立つ。口唇部は多く拂でられて仕上げられており、明瞭な沈線文が施されている。537は2本目の沈線文が大きく屈曲する。538は硬質で焼成され端正な沈線文が施される。539は沈線内に多量のススが残る。540は器壁が厚く、S字の変形文が描かれる。541は傾き等が明らかでないが、平坦な口唇部には不規則な刺突文が施され、沈線文の起点は強調されている。542は長梢円文、543では多重沈線が施文さ

れる。

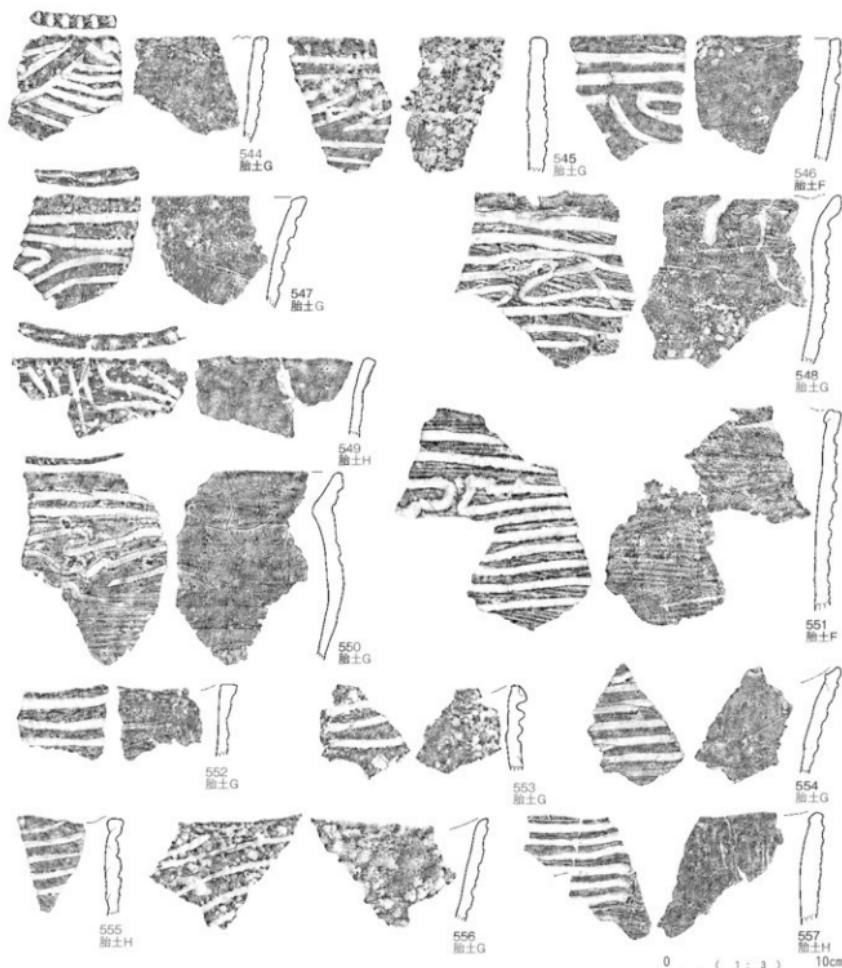
544は半截竹管状工具で口唇部に刻みが施され、深く明瞭な多数の沈線文が施文される。545は平坦でやや厚手の口唇部を持ち、端正な沈線文が展開する。546は丁寧なナデにより仕上げられた器面に規格性のある文様が展開する。547の文様は基本的には4本の沈線文で構成されるが、2本目と3本目の間に菱形の施文域が形成されている。548は口縁端部が外反する形状で、条痕仕上げの器面に並走する幅広沈線文と鉤形を主とする曲線文が展開する。549も半截竹管状工具で口唇部に刻みを施



第86図 7B類土器実測図(13)【5本以上並行沈線文4】

第32表 7類土器観察表(17)

測定No.	測定No.	X座標	Z座標	部位	グリフ	胎土	備考
499	11074	18.196	87.012	142.826	Ⅳ	C9	
	15741	20.278	88.343	143.343	Ⅲ	C9	G
	15773	21.899	89.772	143.406	Ⅲ	C9	
	15774	21.798	89.618	143.394	Ⅲ	C9	
500	8604	26.964	84.289	143.882	Ⅲ	C9	
	10702	26.886	84.647	143.880	Ⅲ	C9	
	11472	24.267	86.032	143.778	Ⅲ	C9	
	14005	26.250	88.330	143.734	Ⅲ	C9	
	14054	26.645	85.134	143.681	Ⅲ	C9	
	14131	24.919	83.779	143.649	Ⅲ	C9	
	14474	24.792	89.590	143.583	Ⅲ	C9	
	15755	22.091	84.245	143.374	Ⅲ	C9	H
	15757	21.841	88.637	143.338	Ⅲ	C9	
	15967	23.974	86.359	143.420	Ⅲ	C9	
501	10127	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅴ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅵ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	11123	23.790	79.512	143.970	Ⅲ	C8	
502	11130	25.141	79.791	144.101	Ⅲ	C8	
	11133	25.342	79.642	144.112	Ⅲ	C8	
	11136	25.512	79.973	144.076	Ⅲ	C8	G
	11812	25.359	79.711	144.114	Ⅲ	C8	
	11814	25.182	79.743	144.078	Ⅲ	C8	
	11826	24.931	79.799	144.016	Ⅲ	C8	
	11827	24.971	79.867	144.032	Ⅲ	C8	
	11828	24.868	79.819	144.005	Ⅲ	C8	
	—Ⅴ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C8	
	14595	19.711	82.968	143.322	Ⅲ	B9	
503	15745	20.928	88.650	143.313	Ⅲ	C9	H
	—Ⅴ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅵ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	221	19.568	89.604	143.745	Ⅲ	B9	
504	236	19.340	80.489	143.553	Ⅲ	B9	G
	5732	19.853	81.006	143.533	Ⅲ	B9	
	15644	19.703	81.648	143.304	Ⅲ	B9	
	16603	16.382	84.110	142.852	Ⅲ	B9	
	—Ⅴ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B9	
	7729	22.930	33.658	144.874	Ⅲ	C4	
	7730	22.980	33.661	144.870	Ⅲ	C4	
	9743	25.442	33.256	144.723	Ⅲ	C4	H
	9752	24.431	32.830	144.752	Ⅲ	C4	
	9796	22.985	33.600	144.811	Ⅲ	C4	
505	9797	23.941	33.504	144.720	Ⅲ	C4	
	9810	21.680	33.499	144.735	Ⅲ	C4	
	12347	22.853	33.635	144.794	Ⅲ	C4	
	6	12.655	44.368	0.000	I	B5	
	987	25.964	87.793	144.198	Ⅲ	C9	
	1019	22.748	88.670	144.024	Ⅲ	C9	
	2417	22.134	88.539	143.801	Ⅲ	C9	
	2434	22.854	88.824	143.906	Ⅲ	C9	
	3483	23.697	85.209	143.855	Ⅲ	C9	
	3498	25.804	87.709	144.002	Ⅲ	C9	
	5204	26.087	87.691	143.952	Ⅲ	C9	
	5215	26.323	86.979	143.917	Ⅲ	C9	
	5496	20.246	88.446	143.506	Ⅲ	C9	
506	8541	25.966	87.671	143.895	Ⅲ	C9	
	10669	22.674	89.063	143.669	Ⅲ	C9	
	11464	25.351	87.340	143.792	Ⅲ	C9	
	14026	25.546	87.065	143.704	Ⅲ	C9	
	14027	25.572	86.987	143.668	Ⅲ	C9	
	14031	25.796	86.941	143.654	Ⅲ	C9	
	14035	25.630	88.922	143.610	Ⅲ	C9	
	15845	25.815	88.996	143.507	Ⅲ	C9	
	15846	25.772	88.997	143.509	Ⅲ	C9	
	15848	25.680	88.857	143.559	Ⅲ	C9	
507	15849	25.610	88.948	143.557	Ⅲ	C9	
	15850	25.591	88.967	143.555	Ⅲ	C9	
	16034	20.304	87.914	143.365	Ⅲ	C9	
	16085	25.581	87.012	143.496	Ⅲ	C9	
	16086	25.671	88.951	143.513	Ⅲ	C9	
	16089	26.101	87.616	143.640	Ⅲ	C9	
	17005	25.576	88.909	143.496	Ⅲ	C9	
	17006	25.627	88.996	143.487	Ⅲ	C9	
	17007	25.660	88.912	143.484	Ⅲ	C9	
	—Ⅴ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
508	—Ⅵ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅶ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅷ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅸ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅹ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅺ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—Ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
509	—Ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅰ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅱ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅲ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅳ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅴ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅵ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅶ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅷ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅸ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
510	—ⅹ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅺ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
511	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
512	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
513	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
514	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
515	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
516	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
517	—ⅾ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅿ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅻ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅼ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅽ	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C9	
	—ⅾ	0.000</					

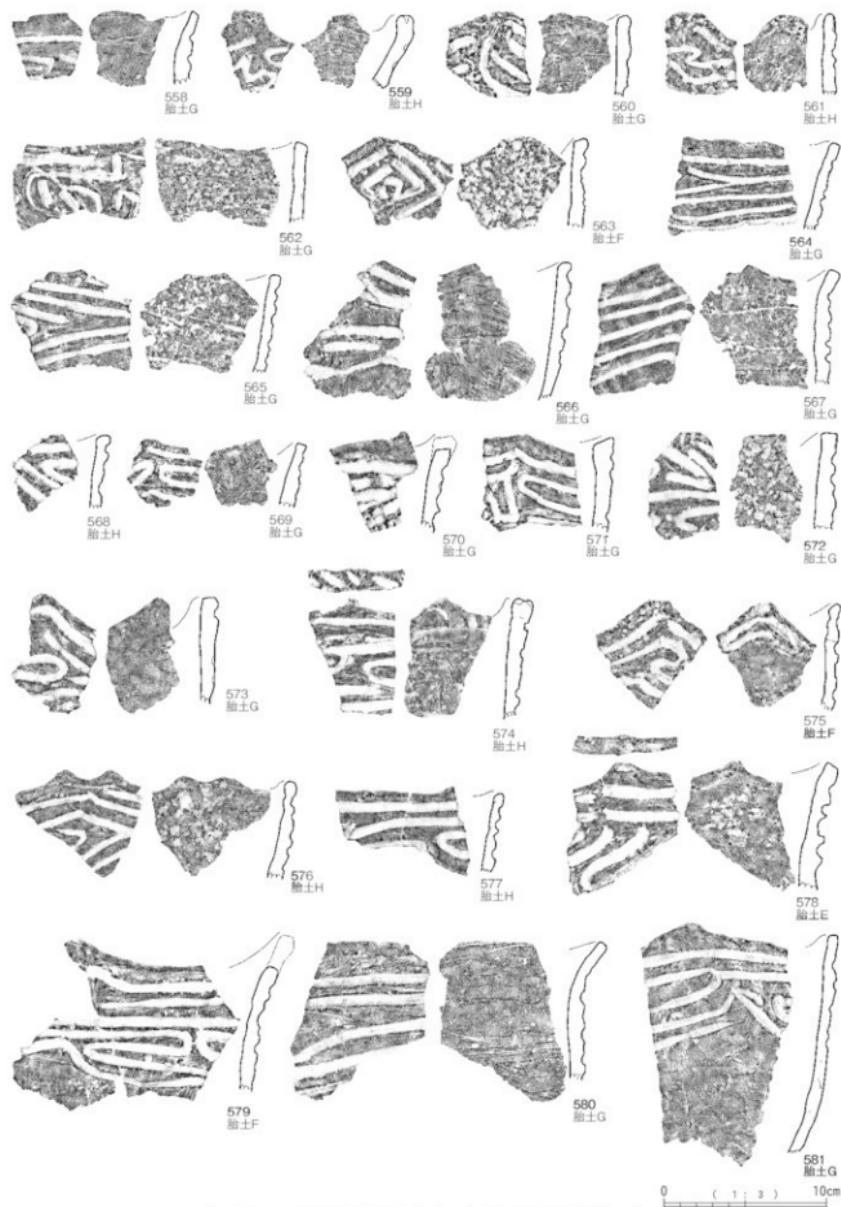


第87図 7B類土器実測図(14)【5本以上並行沈線文5】

沈線内にはスヌが付着する。556の器壁は薄く、尖り気味の口唇部は棒状工具で斜めに押さえられる。施文帯は特に入念に磨かれており、同一工具で明瞭な沈線文を施す。557は内面に縱方向の整形が観察される。

558は施文構成が253に類似する。559は鉤形文を組み合わせるもので、一見、人面風の文様觀を呈している。560も曲線文を施されており、561は具体的な文様構成は明らかでないもののマジカルな表現性が感じられる。562は詳細は不明であるが類例のない屈曲文がみられる。

563は多重に沈線を重ねて菱形文を構成する。564, 565も2本目が菱形の施文域を構成するので、口縁部は緩やかな波状を呈し指頭によるナデで丸く仕上げられている。566も波頂部資料とみられ、直線と曲線の沈線文が描かれるが、具体的な文様構成は明らかでない。567は波状口縁で沈線内にはスヌが付着し、内面には輪積み痕を残す。568も波頂部資料で、シンメトリーな文様構成を連想できる。569の口唇部は平坦で、やや細めの沈線で施文する。



第88図 7B類土器実測図 (15) 【5本以上並行沈線文6】



第89図 7B類土器実測図(16)【5本以上並行沈線文】

570,571,572,573,574も多重の沈線文を重ねて施文される。575は内側にも短沈線文が残される。576は双角状突起部の資料で、内湾する形状とみられる。口唇部は平坦に撫でて仕上げられており、突起部両側には工具により刺突文が施され、外面は深く明瞭な沈線で菱形文を構成する。なお、胎土には凝灰岩粒を含む。577は口縁部の刻みはないが、胎土や施文構成等が578に類似する。579は丁寧な器面調整や沈線文及び文様構成が574や577と類似する。580の口縁部は外反する。581は外面を周回する沈線文と波頂部を起点とする沈線文を組み合わせて文様

が構成される。

582,583,584,585は明瞭な幅広沈線文で、鉤形文や矩形文等を多彩に組み合わせて文様が構成される。584は沈線内にススの付着がみとめられる。586も多重に施文された沈線文で文様が構成され、端正な沈線文が施文される。587,588も同様である。589は器壁の薄い資料で、施文帯には円形と三角形の複合文が残される。590,591,592は円文が施される。593は多重に沈線が施文される。594も多重沈線が施文される。595は内面の条痕往上げと、胎土に含まれる大粒の凝灰岩粒が特徴的である。

第34表 7類土器観察表 (19)

測定no	測定no	X座標	Y座標	2面傾	部位	グリッド	施土	備考
544	38177	12.222	39.476	144.350	Ⅲ	B-4	G	
545	16731	16.764	81.239	143.047	Ⅲ	B-9	G	
546	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	H	
547	15467	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-10	F	
547	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	A-B-4	G	
548	2643	23.216	19.409	144.611	Ⅲ	C-2	G	
549	15965	21.428	82.870	143.366	Ⅲ	C-9	H	
550	3995	22.281	80.452	143.886	Ⅲ	C-9	G	
551	8654	25.686	84.136	143.880	Ⅲ	C-9	F	
551	19907	27.453	84.141	143.981	Ⅲ	C-9		
552	16766	26.863	100.448	144.653	Ⅲ	C-11	G	
553	11549	27.546	86.588	143.952	Ⅲ	C-9	G	
554	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-4	G	
555	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	H	
556	14560	23.985	83.960	143.552	Ⅲ	C-9	G	
557	17973	12.499	11.469	143.522	Ⅲ	B-2	H	
557	16621	12.866	13.198	143.521	Ⅲ	B-2		
558	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-10	G	
559	13977	20.814	93.246	143.629	Ⅲ	C-10	H	
560	10211	22.518	24.892	144.834	Ⅲ	C-3	G	
561	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	A-B-4	H	
562	38359	9.940	42.256	144.165	Ⅲ	A-5		
562	38361	9.297	43.168	144.174	Ⅲ	A-5		
563	6332	91.143	79.109	143.508	Ⅲ	B-8	F	
564	6393	23.794	53.758	144.907	Ⅲ	C-6	G	
565	29062	11.677	44.332	144.442	Ⅲ	B-5	G	
566	6996	17.259	81.516	143.190	Ⅲ	B-9		
566	12062	17.293	81.494	143.166	Ⅲ	B-9		
567	40121	10.622	40.612	144.247	Ⅲ	B-5	G	
568	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-8	H	
569	5887	24.943	77.129	144.333	Ⅲ	C-8	G	
570	13448	18.036	83.401	143.143	Ⅲ	B-9	G	
571	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	G	
572	11999	18.036	78.638	143.406	Ⅲ	B-8	G	
573	15990	23.096	79.331	143.696	Ⅲ	C-8	G	
574	18281	18.015	85.801	142.886	Ⅲ	B-9	H	
575	16322	16.470	16.559	144.203	Ⅲ	B-2	F	
576	3330	12.208	44.909	144.519	Ⅲ	B-5	H	
577	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	H	
578	38289	10.910	42.670	144.431	Ⅲ	B-5	E	
579	16290	18.509	85.763	142.969	Ⅲ	B-9	F	
580	56030	20.798	81.246	143.664	Ⅲ	C-9	G	
581	16983	23.627	79.210	143.593	Ⅲ	C-8	G	
582	11811	27.015	79.898	144.029	Ⅲ	C-8	E	
583	14126	24.378	83.722	143.644	Ⅲ	C-9		
583	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	H	
584	15494	18.777	90.612	143.231	Ⅲ	B-10	G	
585	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-10		
585	14488	25.571	89.061	143.680	Ⅲ	C-9	F	
586	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	H	
587	15720	18.962	79.930	143.388	Ⅲ	B-8	H	
588	15449	17.357	40.739	144.466	Ⅲ	B-5	H	
589	4471	25.486	52.052	144.999	Ⅲ	C-6		
590	7442	24.607	52.588	144.771	Ⅲ	C-6		
591	7443	24.521	52.768	144.826	Ⅲ	C-6	H	
592	7444	24.374	52.930	144.635	Ⅲ	C-6		
593	7567	24.523	52.609	144.763	Ⅲ	C-6		
594	13631	21.682	82.930	143.607	Ⅲ	C-9	G	
591	10909	23.229	80.169	143.932	Ⅲ	C-9	G	
592	14173	22.105	81.977	143.620	Ⅲ	C-9	F	
593	13493	17.876	80.266	143.255	Ⅲ	B-9	E	
594	13498	19.865	82.516	143.368	Ⅲ	B-9		
594	9903	18.912	39.049	144.633	Ⅲ	B-4	H	
595	6677	22.999	80.445	143.934	Ⅲ	C-9		
596	9302	23.007	80.346	143.891	Ⅲ	C-9	H	

7B類本数不明

596,597は端正な並行沈線文が施される資料である。598,599の沈線文は浅い。600の口唇部は内に頬く。601は沈線文の転換点資料で、口唇部の刻みは深い。602,603の沈線文は深くて明瞭である。604は器面調整の条痕を残す。605では最上位が鉤形文となる。607は波状口縁で、口唇部は竹管状工具で刻みが施される。608は穿孔がみられる。609の口唇部は尖り気味である。610

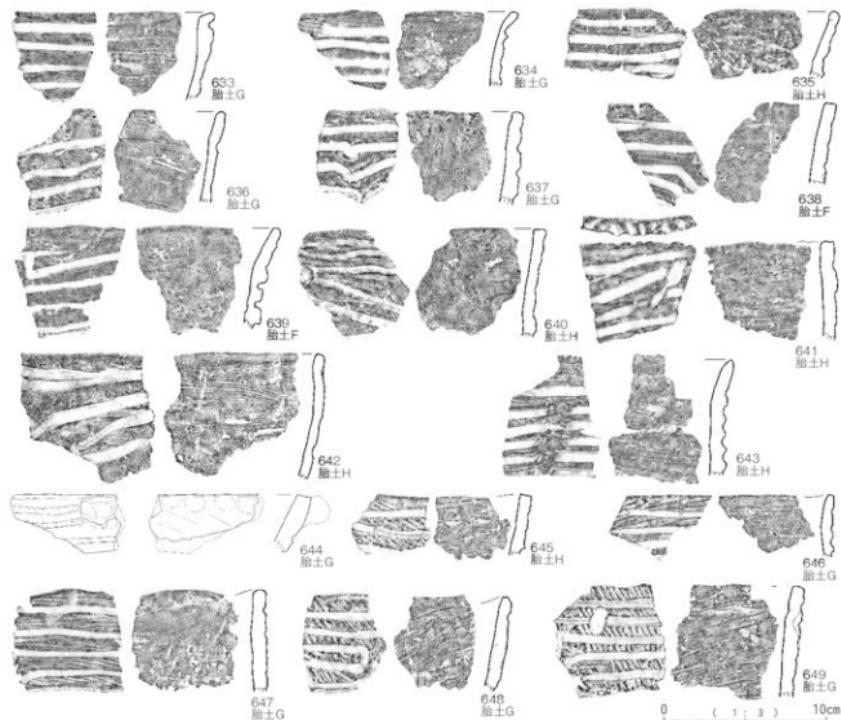


第90図 7B類土器分布図 (5)



第91図 7B類土器実測図(17)【並行沈線文本数不明1】

0 (1 : 3) 10cm



第92図 7B類土器実測図 (18) 【並行沈線文数不明2】

の口唇部は平坦である。611は緩やかに外に向く形状で、四線文に近い文様が施される。612は施文帯と口唇部は撫でられているが、内面の条痕仕上げはそのまま残す。施文帯には並走する鉤形文を観察できる。613.614は鉤形文で文様を構成する。615は周回する水平方向の施文がみられる。616は器壁が薄く、沈線内にはスヌが付着する。617の器壁は薄い。618は周回する水平方向の施文が観察され、口唇部は二枚貝で刻みが施される。619の沈線文は深く、口唇部の作り出しも安定する。620は口唇部内側が若干張り出す。621の口縁部は若干肥厚する。622.623.624.625.626は平縁口縁である。627は周回する水平方向の施文がみられる。628の2段目は半截竹管状工具による並行沈線文である。629の詳細は不明である。630の沈線文は浅く細い。631の口縁部は指頭で押さえられている。632の口縁部はやや外反する。

633は沈線文が深く施され、口唇部の作り出しも安定している。634は内面に瘤状の粘土塊が付着するが、詳細は不明である。635.636の沈線内にはスヌが付着する。637の最上位は周回する沈線文、2本目以下には並

走する鉤形沈線文が施される。胎土には大粒の岩粒が含まれる。638の沈線文は端正で若干細めであり、胎土には石英粒と角閃石が目立つ。639は最上位が鉤形文となっており、口縁部は外反傾向である。640は詳細な文様構成は不明であるが、胎土には凝灰岩粒を含み、両面ともに丁寧なナデで仕上げられた硬質土器である。641は口唇部に二枚貝による刻みが施され、短沈線文を繋ぎ合わせて沈線文を構成する。642は胎土に大粒の凝灰岩粒を含み薄手で硬質に焼成されている。643は最上位の沈線文は直線で施文帯を周回しており、他は変換点が設けられている。644は口縁部に瘤状突起を貼り付けたものであるが、類例は少ない資料である。645は右下がりの条痕調整が地紋効果をなしているもので、焼成は硬質である。内面にはヘラナデが明瞭に残る。646.647は器面調整の条痕を残す。648.649は右下がりの条痕仕上げが地紋効果をなすもので、焼成は硬質で内面のヘラナデも明瞭に残されている。649は穿孔痕が残されるが貫通することなく中断している。

650は口唇部にねじり紐を貼付け、突起部下位の継方



第93図 7B類土器実測図(19) 【並行沈線文本数不明3】

向の四線文を起点とする文様構成である。内面では指揮さえの調整痕が良く観察できる。651は突起部上面に二枚貝で刻みを施し、胎土は長石粒が目立つ。652,653,654は波頂部の破片資料である。655は鉤形文を構成する。

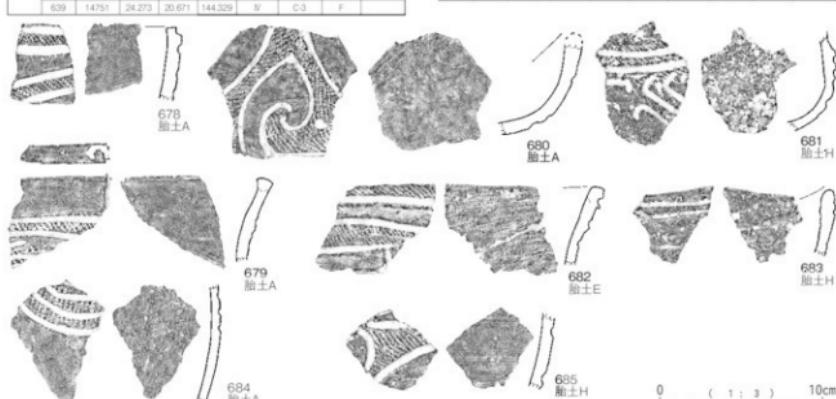
第35表 7類土器観察表(20)

測定No.	回No.	B1.No.	断面	縦横	Z縦横	部位	ツリッフ	胎土	備考
596	10396	21.716	27.723	144.723	Ⅲ	C-3	G		
597	364	28.061	98.414	144.723	Ⅲ	C-10	H		
598	14503	25.053	85.568	143.608	Ⅲ	C-9	G		
599	19145	24.826	87.595	143.363	Ⅲ	C-9	G		
600	一見	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	G		
601	41803	9.302	41.942	144.039	Ⅲ	A-5	G		
602	13973	22.815	92.080	143.756	Ⅲ	C-10	H		
603	一見	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	G		
604	816	23.008	61.717	144.792	Ⅲ	C-7	G		
605	4079	9.835	40.203	144.192	Ⅲ	A-5	H		
606	8461	23.027	78.382	144.002	Ⅲ	C-8	H		
607	39094	10.567	45.137	144.296	Ⅲ	B-5	G		
608	8071	19.791	59.421	144.652	Ⅲ	B-6	G		
609	一見	0.000	0.000	0.000	I	C-4	G		
610	一見	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-10	H		
611	一見	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	H		
612	9006	18.285	82.491	143.278	Ⅲ	B-9	G		
613	9117	19.630	79.036	143.534	Ⅲ	B-8	G		
614	17748	17.163	83.618	142.741	Ⅲ	B-9	G		
615	1758	25.464	78.841	144.264	Ⅲ	C-8	G		
616	2268	19.404	73.043	144.137	Ⅲ	B-8	H		
617	13387	19.995	95.344	143.824	Ⅲ	B-10	H		
618	41893	9.722	41.678	144.049	Ⅲ	A-5	H		
619	12657	20.720	8.447	144.154	Ⅲ	C-1	H		
620	8524	22.581	73.942	144.196	Ⅲ	C-8	H		
621	19070	22.087	88.248	143.298	Ⅲ	C-9	H		
622	6834	18.152	88.387	142.868	Ⅲ	B-9	H		
623	16642	21.295	88.279	143.269	Ⅲ	C-9	E		
624	一見	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	E		
625	13690	23.021	82.050	143.713	Ⅲ	C-9	H		
626	9452	22.866	78.890	143.905	Ⅲ	C-8	G		
627	12791	18.769	16.123	144.352	Ⅲ	B-2	G		
628	18907	19.995	88.445	143.025	Ⅲ	B-9	B		
629	13612	22.722	80.000	143.781	Ⅲ	C-9	G		
630	4977	19.567	59.250	144.776	Ⅲ	B-6	G		
631	17035	22.954	60.296	144.565	Ⅲ	C-7	H		
632	15753	21.933	88.214	143.363	Ⅲ	C-9	G		
633	19926	15.116	85.996	142.363	Ⅲ	B-9	G		
634	13972	22.579	92.599	143.719	Ⅲ	C-10	G		
635	一見	0.000	0.000	0.000	I	C-2	H		
636	13979	20.381	91.964	143.524	Ⅲ	C-10	G		
637	17682	20.297	87.715	143.317	Ⅲ	C-9	G		
638	13389	19.046	95.175	143.796	Ⅲ	B-10	F		
639	14751	24.273	20.671	144.329	Ⅲ	C-3	F		

656の波頂部は棒状工具で押さえられ、両側は二枚貝で刻みが施される。657の波頂部は棒状工具で刻みが施される。659は内面に瘤状の粘土塊が付着するが、詳細は不明である。660,661も詳細は不明である。662は双角

第36表 7類土器観察表(21)

測定No.	回No.	B1.No.	断面	縦横	Z縦横	部位	ツリッフ	胎土	備考
640	1826	18.163	82.580	143.402	Ⅲ	B-9	H		
641	19002	11.813	11.979	143.418	Ⅲ	B-2	H		
642	14084	21.814	83.280	143.537	Ⅲ	C-9	H		
643	8573	27.023	85.456	143.914	Ⅲ	C-9	H		
644	7622	22.262	77.118	144.018	Ⅲ	C-8	G		
645	20489	86.870	143.433	Ⅲ	C-9	H			
646	6634	27.016	93.696	144.267	Ⅲ	C-10	G		
647	3077	23.496	18.981	144.603	Ⅲ	C-2	G		
648	40256	8.277	44.845	143.977	I	A-5	G		
649	16647	19.544	93.966	143.040	Ⅲ	B-9	G		
650	5902	25.263	77.770	144.261	Ⅲ	C-8	G		
651	14254	24.842	79.806	143.779	Ⅲ	C-8	G		
652	18597	81.678	143.396	Ⅲ	B-9	H			
653	一見	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	G		
654	一見	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	H		
655	4506	20.095	93.806	144.794	Ⅲ	C-6	G		
656	15744	21.110	88.285	143.330	Ⅲ	C-9	H		
657	16843	21.517	88.415	143.275	Ⅲ	C-9	F		
658	16707	17.913	79.190	143.275	Ⅲ	B-8	H		
659	10569	27.194	90.657	143.944	Ⅲ	C-10	G		
660	一見	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-10	H		
661	8639	24.823	83.379	143.910	Ⅲ	C-9	G		
662	10471	15.866	21.515	144.437	Ⅲ	B-3	H		
663	41857	20.705	39.017	144.064	Ⅲ	B-4	G		
664	13833	24.062	78.655	143.947	Ⅲ	C-8	H		
665	14408	19.106	91.213	143.288	Ⅲ	B-10	G		
666	15552	19.838	88.297	143.176	Ⅲ	B-9	H		
667	8423	22.756	79.450	143.932	Ⅲ	C-8	H		
668	一見	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	H		
669	827	22.109	85.629	143.672	Ⅲ	C-9	H		
670	10194	22.967	71.096	144.877	Ⅲ	C-3	H		
671	41919	8.103	43.304	143.966	Ⅲ	A-5	G		
672	11532	26.499	86.605	143.785	Ⅲ	C-9	G		
673	19960	26.664	87.758	143.438	Ⅲ	C-6	G		
674	18676	18.433	147.745	144.093	Ⅲ	B-2	G		
675	3865	21.345	83.968	143.717	Ⅲ	C-9	H		
676	19005	18.744	85.493	142.923	Ⅲ	B-9	H		
677	2625	23.890	26.014	144.731	Ⅲ	C-3	H		
678	7396	23.698	19.787	144.476	Ⅲ	C-2	H		
679	14637	24.544	26.516	144.676	Ⅲ	C-3	H		
680	684	19.541	87.715	143.317	Ⅲ	C-9	H		
681	684	19.541	87.715	143.317	Ⅲ	C-9	H		
682	684	19.541	87.715	143.317	Ⅲ	C-9	H		
683	684	19.541	87.715	143.317	Ⅲ	C-9	H		
684	684	19.541	87.715	143.317	Ⅲ	C-9	H		
685	684	19.541	87.715	143.317	Ⅲ	C-9	H		



第94図 8類土器実測図

状突起片とみられる。663には端正な沈線文が施される。664の波頂部は平坦である。665は胎土に大粒の凝灰岩粒を多く含む。666は施文帯を水平に周回する施文がみられ、口唇部は二枚貝で割みが施されている。667,668の沈線文は浅い。669の沈線文は明瞭である。670は突起部前面を棒状工具で押さえている。671の波頂部は竹管状工具で刺突され、頂部下位が施文の転換点となる資料で深い沈線が施されている。672の口唇部には粘土板の貼り合わせ痕が残る。673は脣部資料であるが、鉤形文が重複して施文されている。

674,675,676,677は沈線を格子状に絡めたもので、674や676では並行沈線文で文様を構成する様子がよく観察できる。

8類 磨消繩文土器

使用されている繩文原体は、全てRLである。いずれも移入された土器である。

678の最大の特徴は、胎土に雲母を多量に含むことである。詳細な形状は明らかでないが、最上部は若干内弯する鉢形土器とみられる。口唇部は平坦で、丁寧に撫で消したRL原体の繩文を並走する沈線文で挟み込んでいる。なお外表面は淡い褐色、内面は黒灰色を呈している。679の口唇部には半截竹管状工具の刺突がみられる。680の内外面共に入念にヘラで磨き上げられ、肌色の器面は光沢を保ちツルツルしている。福田K2式土器5段階の2に該当するもので、無節RLの繩文原体を転がし、沈線外の磨消部は丁寧に撫で消している。口唇部は丸みをなし、口縁部の波頂部に該当する。681は砂粒の多い胎土で器面はザラザラした質感を呈する。

682～685も680等と時期的に並行する資料とみられる。

第37表 8類土器観察表

件名No	地番	測定No	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	胎土	備考
678	一田	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-10	A		
679	11063	18.414	86.276	142.041	Ⅲ	B-9	A		
680	14447	22.847	90.204	143.485	Ⅲ	C-10	A		
681	17327	16.756	16.717	144.189	Ⅲ	B-2	H		
682	7022	19.126	81.652	143.404	Ⅲ	B-9			
683	11374	16.212	66.700	142.815	Ⅲ	B-9	E		
683	18530	12.738	8.599	143.327	Ⅲ	B-1	H		
684	一田	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	A		
685	14339	20.333	10.668	144.094	Ⅲ	C-2	H		



第95図 8類土器分布図

9類 振似縄文土器

口縁部や並走する沈線文間に、二枚貝刺突文や巻貝殻頂部転压文を持つ一群で、それらの背景には磨削繩文文化の存在があるとみられる。具体的には、口縁部に二枚貝による縱方向の連續刺突文を持つものと、持たないものが存在する。そこで、今回は、口縁部に連續刺突文を持つものをA類、持たないものをB類として取り扱い、関連資料として主要な胴部資料を追加して抽出した。

9A類

686は復元口径30cmの平坦な口唇部の深鉢形土器で、二枚貝刺突文を磨り消す資料である。磨り消し後は、屈曲文を境に左は1~3本の、中央部は3~4本の、右は1~4本の沈線文で施文帯を区画する。施文の順位は、二枚貝刺突文が先行し、その後に沈線文が施される。器壁も厚く重量のある作りで、内面も丁寧に撫でて仕上げている。

687は3本の並行沈線文で構成される口縁部施文帯の上下に貼付された突帯間を橋状把手で結び、それぞれの上面に二枚貝で連續して刻みを施す。器面の觀察からは上下2本の突帯文の貼付け→橋状把手の貼付け→並行沈線文の施文順位が看取される。なお、橋状把手の左側では2本目と3本目の沈線文間に二枚貝による刻みが施されている。器面調整は施文帯周辺は丁寧なナデ、胴部上部では条痕の横ナデ、下部では横ナデと継ナデが併用されており、内面は主に横方向の粗い条痕仕上げとなる。

688は口縁部から続く二枚貝刺突文を沈線文で囲んでいる。なお、口唇部はヘラで平坦に仕上げられている。689も口縁部から続く二枚貝刺突文を沈線文で囲む資料である。690は口縁部が若干内弯する傾向がみられ、胎土に小豆色の粒子を含み、2~3本の沈線文間に刺突文を残す。691の沈線はやや細くなる。692は胎土に大粒の凝灰岩粒子を、693は胎土に小豆色の粒子を含む。694の内面には輪積み痕が残る。695の器面調整は丁寧で、二枚貝刺突文が沈線文に先行する。696の形状及び傾きは不明であるが、平坦な口唇部の特徴から平縁口線の大型土器の可能性が高いとみられる。器壁の厚い硬質土器で、丁寧に磨いた口縁部に密に、4~5本の沈線文間に疎に二枚貝刺突文が施される。口縁部では二枚貝刺突文が先行し、下位では沈線文が先行する。697は二次焼成による亀裂が多い資料で、分類に課題を残す。698の全体像は明らかでないが、2~3本もしくは4~5本の沈線間にには密な二枚貝刺突文を残す。施文帯は丁寧なナデ仕上げの後口唇部の狭い平坦面は浅く密に斜めに、口縁部は特に密に刻みが施される。なお、二枚貝刺突文は全て沈線文に先行し、沈線施文が磨り消し作業に相当する。内面は粗い条痕仕上げでススの付着も認められ、胎土には石英粒が目立つ。699は直線的に立ち上がる大型の深鉢形土器であるが、器壁は薄い。器面は丁寧なナデ調整の後に、口縁部と途中に屈曲文を挟みながら6~7本の沈線文を施し、間に二枚貝を連續して刺突する。胎土には

長石粒が目立ち、口縁部の二枚貝刺突文が若干不明瞭である。700の4本の沈線文は幅広で、先行する二枚貝刺突文は3本目と4本目との沈線文で断ち切られる。二枚貝刺突文は口縁部では左回りに間隔を置き、下位では同じ方向に上下にずらしながら密に、沈線文に先行して刺突する。701の二枚貝刺突文は若干粗となる。702は10本の横走する沈線文を持つもので、口縁部と9~10本の沈線文間に二枚貝刺突文が残る。最上位の沈線文は施文帯を一直線に周回するが、2本目以下は一筆書きではなく中縦窓が存在し、8本目は鉤形の屈曲文となる。なお、施文の順位は二枚貝刺突文が先行し、それを並走する沈線文で囲むが、沈線文からはみ出した刺突文はそのまま残されており、意図的な磨り消しは確認できない。

703は704と酷似する資料である。704は丁寧に撫でた施文帯の並行沈線文間に横方向に二枚貝を刺突したもので、胎土に含まれる小豆色の粒子と内面のヘラナデ調整が特徴的である。705の沈線施文具は、棒状工具と半截竹管状工具の使い分けが行われている。口縁部から胴部に斜め方向の貝殻腹縫部刺突文を施し、これを沈線文が断ち切っている。706の口縁端部は二枚貝で刻まれており、丁寧に撫でて仕上げられた施文帯にはやや広めの施文具で渦巻き文や鉤形の沈線文が施され、一部の沈線文間には二枚貝による刻みが施される。内外面共にナデで仕上げられている。707の波頭部上面に施された刻みと沈線文には同じ棒状工具が使用されており、波頭部を起点とする文様構成が想定される。沈線文は深く明瞭に施文され、二枚貝刺突文の施文は沈線文後に行われている。709は器形復元に至っていないが窓付の台形状状突起を備えるものとみられ、その正面から口縁部と雲形状の沈線文間に二枚貝刺突文が確認できる。胎土は角閃石を多く含むが、激しく風化する。710は711に酷似する資料で同一個体の可能性もある。711は器壁の厚い大型の深鉢形土器で、幅広で深く明瞭な沈線文間及びその一部をヘラ状工具で刻んでいる。口縁部ではヘラ刻みが先行するが下位の施文帯では沈線文が先行しており、沈線文間にヘラで不規則に刻まれる。なお、砂粒を中心とする胎土には数点の黒曜石の碎片が含まれる。712は波状口縁土器で器壁は薄い。口縁部に深い刻みを施した後、又状工具による並行沈線文で四角く開む区画文を設け、並行沈線文間に又状工具と同一幅のヘラで密に刻みを施す。また区画文間に又状工具による並行沈線文で斜めに結んでいる。胎土は角閃石のほか、小豆色の粒子を含む特徴的なものである。

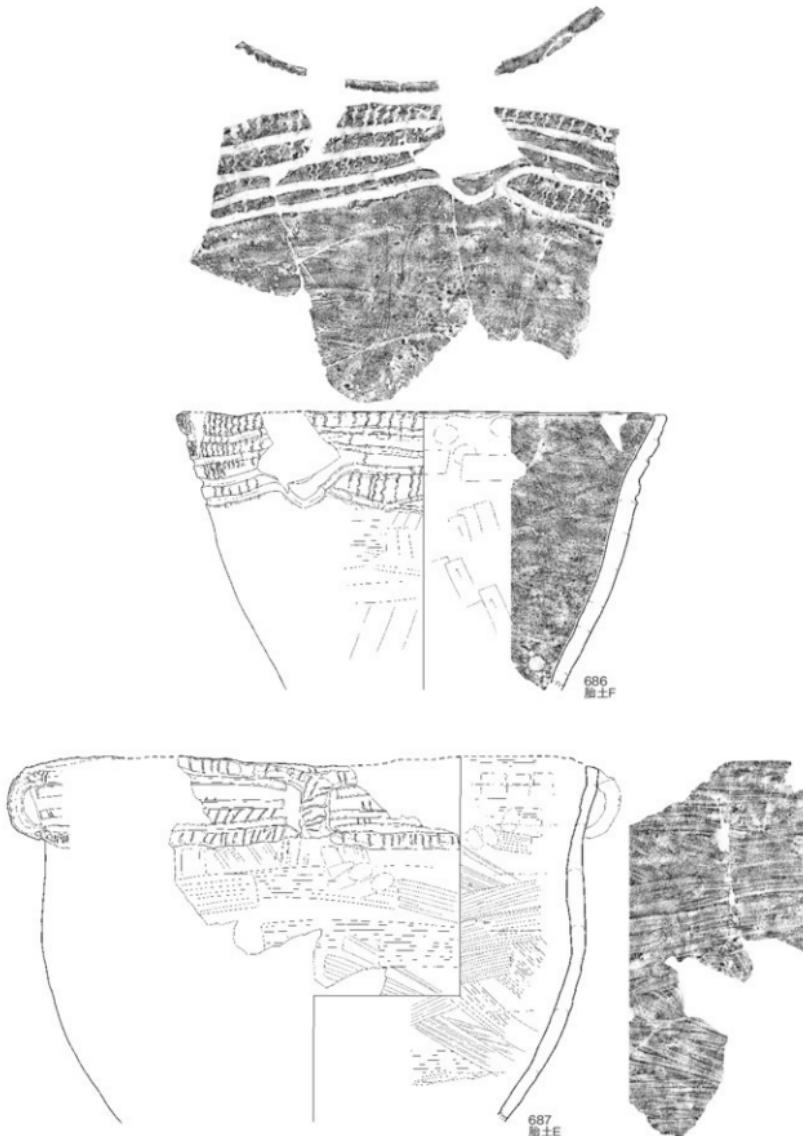
713は傾き等は不明であるが、台形状状突起を備え口唇部は平坦面をなす。口縁部の連續刺突文は周回する沈線文に先行し、施文帯の連續した二枚貝刺突文は2本目と3本目の沈線文で囲まれている。胎土はきめが細かく、石英粒が目立つ。714は口縁部の連續刻みや、梢円形に開いた沈線文間に刺突する手法が725と同一である。715は復元口径34.4cmで2本の粘土紐を口唇内外に貼付



第96図 9類土器分布図



第97図 9 A類土器分布図



第98図 9 A類土器実測図 (1)

0 (1 : 3) 10cm